

「明和町(齋王宮)の文化財保護・観光の発展につくした人々」

六月になると、わたしたち齋宮小学校の校区では「齋王まつり」がおこなわれます。毎年楽しみにしている人もたくさんいるでしょう。今わたしたちが使っている齋王や齋宮という名前は千三百年前から使われてきたものです。しかし、長い間、そのことは忘れられていました。幻まぼろしとなっていた齋王や齋宮(齋王の住まい)がどのようにして、また表に出るようになったかを調べました。

日本の古い歴史の本には、齋王という、天皇の代わりに伊勢神宮つかに仕えていた女性のことが登場します。齋王は、天皇の娘や姉妹、いとこなど、結こんしていない家族から選ばれえら、都(天皇の住む京都)から遠くはなれた齋宮でくらししていました。六七〇年ごろから六六〇年間で、六〇人くらいの齋王が齋宮にやって来たことが分かっています。しかし、一三三〇年ごろからこの都から齋王が来るしゅうかんはなくなり、その後は、齋王の住んでいた齋宮は、この明和町齋宮あたりにあることは分かっていたが、どこにあったのか、分からなくなっていました。

明治一四年(1881)に、齋宮地区に住んでいた永島雪江せつこうさん、乾覚郎いぬいかくろうさん、北野信幸のぶゆきさんが、齋王が住んでいた齋宮を盛り立てようという運動を始めました。そして、明治三六年、齋宮村の村長櫛谷定治郎くしやさだじろうさんを会長として、乾覚郎いぬいかくろうさんたちがここに齋宮があったという石碑ひを建てました。大正七年には、齋王宮を復興ふっこうすることを大臣に願うことにしました。

昭和四年(1929)には、三重県が齋王の森の南はしに「史蹟齋王宮あど」の

碑ひを建てました。このようにして、齋宮村の人々の中に、本格的に齋王宮を保護ほごしているという運動が巻き起まったのでした。

太平洋戦争が終わって二十年ほどたった昭和四五年（1970）、齋宮駅の北側（今の齋宮歴史博物館の辺り）に住宅地じゅうたくを作る計画があり、遺跡が広がっていないか確認のために発掘調査をしたところ、土器どきのかけらが出てきました。この辺りには、昔の人が住んでいたせきがあったことが分かっていました。でもまだ、これが齋宮あとは分かりませんでした。調査をしていた人たちは、もっと広い場所を発くつ調査するために、住宅を作ろうとしていた会社が発くつ調査をしてもらうようお願いをして、三重県にも協力してもらうようお願いをしました。そこで、ようやく本格的な発くつ調査が始まりました。

調査によって、齋宮周辺には昔の建物の跡が整然とならんでいたことが明らかになり、他にも緑釉陶器りよくゆうどうきや蹄脚硯ていきやくけん、墨書土器ぼくしょどき、祭祀用具さいししようぐ（ふつうの人々が使わないような道具）が発見され、このあたりで京の都のようなみやびやかな生活がおくられていたことがたしかめられました。また、いろいろなものが発見されると、三重県議会の議員さんたちからも、齋宮あとを保ぞんしようとする運動が起こりました。議員さんたちの運動により、国会に「齋宮あとを保存してほしい」という願いをもっていくことになりました。

この調査・保存ほぞんの活動は、昭和五四年（1979）、齋宮跡の「国史跡指定」というかたちで実を結びました。発くつによって、「幻まぼろしの宮」とされてきた齋宮の調査が進むことになりました。この遺跡いせき発くつは、今も行われているのですが、

そのすべてが明らかになるには、あと二百年ほどかかると言われているほど大きなものなのです。このように、多くの人々の熱意と県や国への働きかけ、さらに地元明和町、齋宮の住民の理解と協力によって保ぞんが実現したのです。

このように、齋宮が齋王の住まいや役所として、大変にぎやかな町であったことが分かってくると、何とか齋宮を齋王の住んでいた都として盛り立てようという人々の願いが強くなってきました。そして昭和五八年に、齋宮の婦人が「齋王の森」で、「第一回齋王まつり」をおこないました。その当時の祭りは、式典だけのかんたんなものでした。

第二回では、貴重な文化遺産である国史跡「齋宮跡」を広めようと、地域の発展のために、二百名からなる齋王群行を中心とした「齋王まつり」を行うことを目的にかけました。この時に、齋王まつり実行委員会が、発足しました。いよいよ第三回から子ども齋王を中心に群行が始まりました。皆さんの知っている「齋王まつり」はこのようにして、地域の人々のねがいで始まり、いまでは40回以上も続いているのです。そして、この「齋王まつり」は全てがボランティアの方々の力で、行われているのです。

齋宮跡の調査を進め、調査成果や齋王のことを詳しく公開するために、平成元年（一九八九）齋宮歴史博物館が作られました。十年後には続いて、いつきのみや歴史体験館が作られ、古く齋宮で行われてきた行事などを体験することができます。

二〇一五年、齋宮は日本遺産に認定されました。

史跡齋宮跡は全国的にも高い歴史的・文化的価値を持っていますが、史跡

を保存するだけではなく、その魅力的価値をより分かりやすくするととも

に、さらに史跡の魅力を高めていくため、三重県はさいくう平安の杜の整備を

行いました。新しい建物をみなさんも知っていますね。日本遺産になったこと

で、遠くから齋宮をおとずれる人がふえています。その人々に齋宮の歴史や

魅力を伝えるため、地域の人々によってガイドボランティアも行われています。

このようにして、長い年月をかけて、齋宮を愛してきた人たちによって、わ

たしたちのふるさとが大切にされてきました。

*この文章は齋宮小学校4年生の社会科の授業のために青木典子先生により作成されたものを一部修正したものです。